資料4

平成 29 年度　地域ケア推進会議

（１）今年度における地域ケア個別会議の取り組み（平成 30 年 1 月末現在）

◎実績

・開催回数　　１９回　　２５ケース

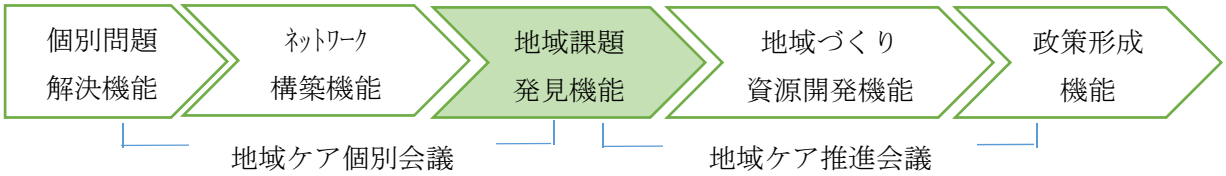
・会議詳細　　別紙「地域ケア個別会議の開催状況」のとおり

・地域ケア個別会議の効果

・本人を取り巻く関係者が集まり、それぞれの情報を交換することで情報共有ができる。（多職種連携・情報共有）

・困難事例について関係者それぞれの役割が明確になった。（ケアマネ支援）

◎地域課題の検討



① 潜在ニーズの明確化

地域にある課題を発見するために、問題点を明らかにし、共通理解をする。

② 問題解決に向けての取り組み

・各町から個別ケースの報告

これらの事例から共通して見えてきた困りごと

高齢者を支える人が身近にいなくて困っている

困っている状況
・子供達が遠方に住んでおり、めったに帰ってこない。 ・周囲に家が無い。（声かけ・見守りする人がいない） ・集落みんなが高齢者である。 ・本人に認知症があり、関わった人が悪者になるので手出しできない。 ・転入者なので近所に親戚がいない。 ・元気な頃から近隣との交流がない。 ・認知症があり、近隣者への被害妄想がある。 ・子供・身寄りが誰もいない ・子供に障害があり、支援が望めない。 ・支援をしていた人が、支援の必要な状態になった。

◎　高齢者を支える支援者が身近にいないことについて、考えられる具体例はありますか？

（２）地域ケア個別会議の来年度の取り組み

＜介護支援専門員へのアンケート結果から（抜粋）＞

Ｑ１地域ケア個別会議の必要性は高いと認識している　81％

その理由としては（回答の多かった順）

１．ケアマネ支援や関係者・近隣者と共通理解・協力体制ができる。

２．家族や介護保険サービスだけでは対応が難しい。

３．地域資源が把握でき、計画に反映できる。

Ｑ２自立支援プランへの見直しについて、専門職種の助言を希望する　83％

地域ケア個別会議

（１）　処遇困難型ケースへの対応（随時）

少し気になるケースや現在困っているケースについて多職種で検討する。

（２）　自立支援型プランへの見直し

専門職種による既存プランの見直しをおこない、自立支援に向けたプラン作成をおこなう。